

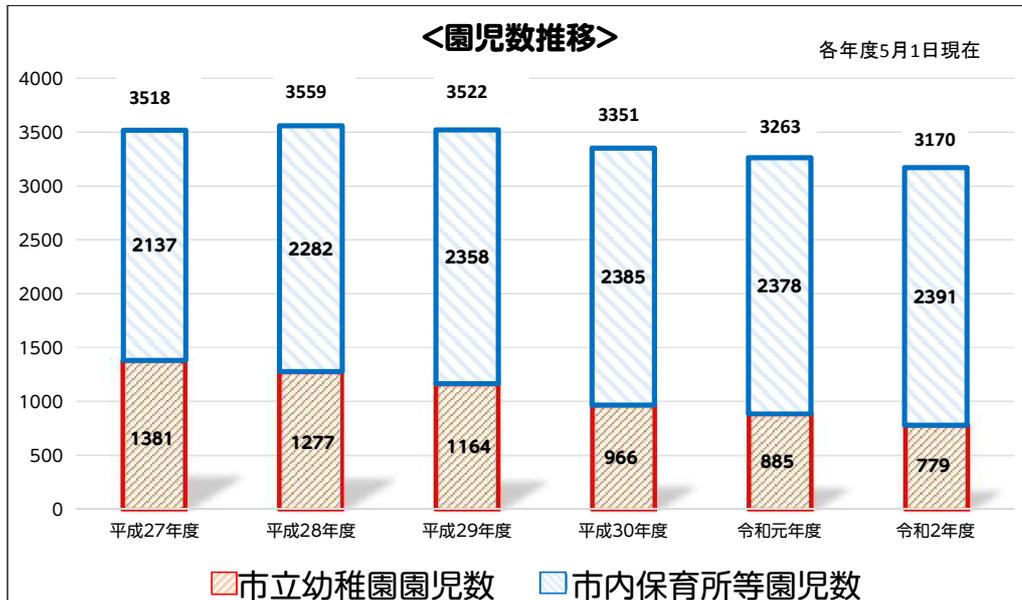
生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方<概要版>

本市では、就労家庭の増加や国の就学前教育・保育無償化の実施によって、保育ニーズが高まり、市立幼稚園の園児数は過去5年間で44%減少しました。その結果、現在、1学年1クラスのみ幼稚園が多数存在し、1クラスの園児数も減少傾向です。こうした中で、園児は集団の中で多様な考え方にふれ、試行錯誤する機会が少なくなり、人間関係において固定化しやすくなる状況が懸念されます。

また、少人数の幼稚園には幼稚園教諭の配置も少なくなり、保護者の方への対応や地域の子育て支援を行う人員不足、また、共同で保育する機会が少なく人材育成の面でも課題が生じています。

このことから、本市教育委員会は、教育環境をより良くするため、学識経験者、自治会、PTA、公募市民等で構成する「生駒市学校教育のあり方検討委員会」から答申をいただき、この答申を尊重し、「生駒市立幼稚園のあり方に関する基本的な考え方」を策定しました。

<生駒市の園児数の現状>



少子化の
進行

就労家庭
の増加

保育ニ
ーズの増加

国も自治体に対して、認定こども園化や、公共施設の適正管理の推進について求めている。

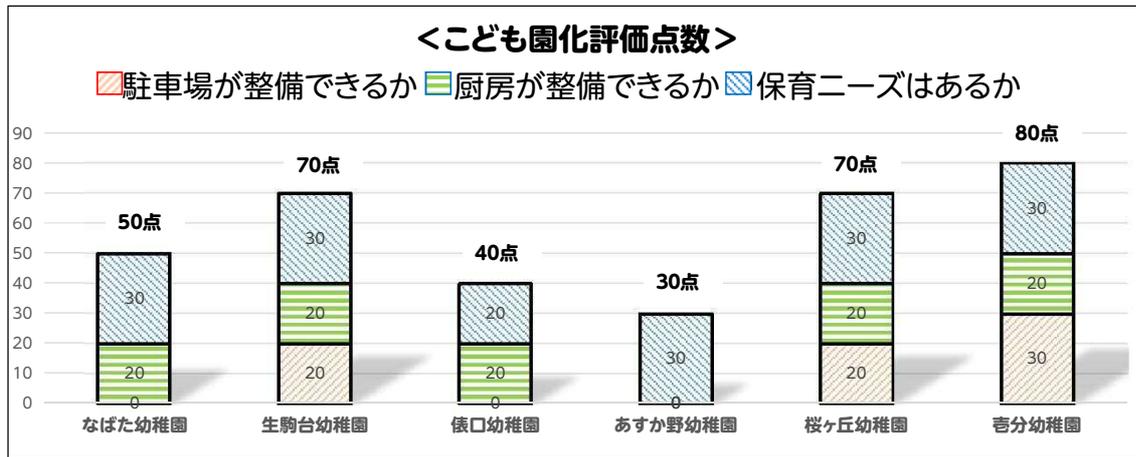
「生駒市学校教育のあり方検討委員会」答申

<市内公立幼稚園の評価(抜粋)>

「望ましい」幼稚園規模の面から課題のある幼稚園

なばた幼稚園	俵口幼稚園	壱分幼稚園
<ul style="list-style-type: none"> 保育室稼働率 44.4% (全9室中 空き5室) 老朽化比率 69.4% 近隣保育施設有(壱分幼稚園、ソフィア東生駒こども園) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室稼働率 50.0% (全10室中 空き5室) 老朽化比率 58.3% 近隣保育施設有(生駒台幼稚園、白百合幼稚園、阪奈中央こぐま園) 	<ul style="list-style-type: none"> 保育室稼働率 63.6% (全11室中 空き4室) 老朽化比率 60.2% 近隣保育施設有(なばた幼稚園、いちぶちどり保育園、あいづ壱分保育園)

<こども園化するに当たっての評価について(抜粋)>



表の3項目に基づいて評価をした結果、こども園化するにあたり評価が高いのは生駒台幼稚園、桜ヶ丘幼稚園、壱分幼稚園とされました。

以上により、「生駒市学校教育のあり方検討委員会」の答申では、「なばた幼稚園は壱分幼稚園と統合し、壱分幼稚園をこども園化すること。」と、「俵口幼稚園は生駒台幼稚園と統合し、生駒台幼稚園をこども園化すること。」が望ましいとされました。



生駒市教育委員会の基本的な考え方

答申を重く受け止めた上で、統合・こども園化(以下「再編」という。)について、幼稚園、保護者、地域の皆様と意見交換を重ねて方向性を決定します。



<再編をすすめるにあたっての問題点と検討事項>

①通園の負担	<ul style="list-style-type: none"> 通園バスの検討、駐車場の確保 通園環境の確認
②生活環境の変化	<ul style="list-style-type: none"> 在園児への柔軟な対応 情報発信や相談対応
③地域との関係	<ul style="list-style-type: none"> 関係性の継続への配慮
④跡地の利用	<ul style="list-style-type: none"> 他部局との連携した総合的な検討 地域との十分な協議
⑤特別な配慮を要する園児への対応	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる面で不利益が生じないように対応策を協議

<再編による効果>

集団規模の確保	<ul style="list-style-type: none"> 集団による成長の促進 複数クラスの確保による保育体制の充実
こども園化による効果	<ul style="list-style-type: none"> 保育ニーズへの対応 家庭状況が変化しても転園不要

上記<再編をすすめるにあたっての問題点と検討事項>について、裏面にご意見をご記入ください。
ご協力をお願いいたします。

幼稚園再編に係る地域協議会